

F  
A  
Z  
I  
L  
S  
A  
Y  
  
2  
0  
2  
3

現代最高のピアニストに飛翔する  
鬼才ピアニストから  
ファジル・サイの今を聴く！



2023 **9/13** (水) 19:00 開演 (18:30 開場)

# SAY PLAYS SCHUBERT

シューベルト: ピアノ・ソナタ 第19番 ハ短調 D.958、第21番 変ロ長調 D.960  
ファジル・サイ(ピアノ)

©Marco Borggreve

**9/14** (木) 19:00 開演 (18:30 開場)

# SAY PLAYS SAY

ファジル・サイ: ヴァイオリン・ソナタ 第2番 Op.82《イダ山》 **日本初演**

ファジル・サイ(ピアノ) 服部百音(ヴァイオリン)

**クレオパトラ Op.34**

服部百音(ヴァイオリン・ソロ)

ニューライフ・ソナタ / 3つのバラード

バガニーニ・ジャズ・ファンタジー

サマータイム・ヴァリエーションズ

トルコ行進曲“ジャズ”

ファジル・サイ(ピアノ)



服部百音  
9/14出演

©Yuji Hori

## 紀尾井ホール

2023年 **6月10日** (土) 朝10時チケット発売 全席指定(秘込) **¥8,000** 2公演セット券 **¥15,000**

※セット券は2公演とも同じお席をご用意いたします。(セット券はチケットスペース電話・ぴあWEBのみで取り扱い)

ご予約/お問い合わせ チケットスペース **03-3234-9999** [Q チケットスペースオンライン](#) [検索](#)

プレイガイド

■チケットぴあ <https://pia.jp/> ■ローソンチケット <https://l-tike.com/> ■イープラス <https://eplus.jp/>

※未就学児のご入場はお断りいたします。※曲目・曲順・出演者等に変更がある場合がございます。※車椅子でご来場されるお客様はご購入前にチケットスペースまで必ずお問い合わせください。※感染症対策の最新情報・ご来場のお客様へのお願いはチケットスペースHP(<https://www.ints.co.jp/>)をご確認ください。※2階バルコニー席(BL/BR)はホールの構造上席位置によっては舞台が大変見えづらいお席となります。

# 鬼オピアニストから 現代最高のピアニストに飛翔する ファジル・サイの今を聴く!

トルコ出身の鬼オピアニストとして  
世界中のクラシック・ファンに衝撃を与えた  
鮮烈なデビューからはやくも四半世紀。  
現在、誰よりも聴かれるべき正統派ピアニストとして  
欧米で高い注目を集めるファジル・サイが、  
今もっとも力を注いでいるシューベルトの後期ソナタと  
日本初演曲を含む衝撃の自作を披露する  
話題沸騰のリサイタルが2夜連続で開催決定!

©Marco Borggreve

「ある作曲家の音楽を解釈する時、作曲家本人のように音楽を感じる必要がある。たった今生まれた新作のように、みずみずしく解釈すべきだ」。この理想を有言実行できる数少ないピアニスト/

コンポーザーのひとりが、今や巨匠への道を歩みつつあるファジル・サイだ。今回、彼が2夜連続で挑むのは、シューベルトとサイ自身。ともにメロディアスな歌謡性を必要とする作曲家だ。200年の時の隔たりを越え、みずみずしい“歌ごころ”が奏でられる幻想的な2夜。音楽を愛するすべての人に贈る特別なプログラムである。

**第1夜** ここ数年、ピアノ音楽史の最重要作品を次々と録音・演奏してきたサイが、満を持してシューベルトの後期ピアノ・ソナタ2曲を披露する。ベートーヴェンに勝るとも劣らない気迫と熱量で聴く者を圧倒する《第19番 ハ短調 D.958》。シューベルト最晩年の深遠なる精神性を神秘的に奏でる《第21番 変ロ長調 D.960》。サイが最も愛するホルンのひとつ、紀尾井ホールでロマン派の真髄に触れる一夜となるだろう。

**第2夜** 《パガニーニ・ジャズ・ファンタジー》や《トルコ行進曲“ジャズ”》など、作曲家としてのサイの名を一躍高めた有名曲に加え、ここ10年に彼が作曲した選りすぐりの新作を一挙に披露する“サイ・プレイズ・サイ”。しかもプログラム前半では、近年サイ作品の演奏に意欲を燃やす服部百音と奇跡のコラボを実現させる。目も眩む超絶技巧を駆使した無伴奏ヴァイオリンのための《クレオパトラ》、美しい鳥のさえずりに自然保護の願いを込めたヴァイオリン・ソナタ第2番《イダ山》(日本初演)は、聴く者の心を激しく揺り動かすはずだ。 前島秀国 (サウンド&ヴィジュアル・ライター)

## ファジル・サイ (ピアノ・作曲) FAZIL SAY, pianist / composer

ファジル・サイのコンサートは異次元である。率直で赤裸々で刺激的な演奏、つまり人の心にまっすぐ訴えかけてくる。1986年に作曲家のアリベルト・ライマンがアンカラの音楽院を訪れた際、当時16歳だったサイの演奏を偶然耳にしたときに「絶対にこの少年の演奏を聴かなきゃだめだ!まるで悪魔のように演奏するのだ」と言った。

作曲家として、ザルツブルク音楽祭、フォンダシオン・ルイ・ヴィトン、オルフェウス室内管弦楽団、BBCなどに委嘱作品を書いているほか、交響曲5作品、オラトリオ2作品、あらゆる楽器の協奏曲、数々のピアノ・ソロ曲や室内楽曲を作曲している。

これまでに数えきれないほどの国や都市で客演しており、その軌跡は5大陸すべてを網羅する。フランスのフィガロ紙は、サイを「天才」と評した。また、室内楽にも熱心に取り組んでおり、ヴァイオリンのパトリツィア・コパチンスカヤと長年素晴らしいデュオを組んでいるほか、マキシム・ヴェンゲーロフ、ミネッティ弦楽四重奏団、モディリアーニ弦楽四重奏団、ニコラ・アルトシュテット、マリアヌ・クレバツサラと定期的に共演している。

これまでにバッハからストラヴィンスキーまで数々のレコーディングをしており、批評家たちから非常に高く評価され、エコー・クラシック賞に3度輝くなど数々の受賞歴を持つ。最新のリリースは、2022年秋にワーナー・クラシックスより発表した《バッハ: ゴルトベルク変奏曲》。



©Yuji Hori

## 服部百音 (ヴァイオリン) MONÉ HATTORI, violin

※9/14 出演

5歳よりヴァイオリンを始め、8歳でオーケストラと初共演。2009年にリピンスキ・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで史上最年少第1位、その後も多数の国際コンクールでグランプリを受賞。2017年に新日鉄住金音楽賞、岩谷時子賞、18年にアリオン桐朋音楽賞、服部真二音楽賞、2020年にホテルオークラ音楽賞、出光音楽賞を受賞。現在はN響、読響、東フィル、東響、日フィルをはじめとする数々の著名オーケストラ、指揮者と共演し国内外で演奏活動を行っている。現在、桐朋学園大学音楽学部大学院に在籍。使用楽器は日本ヴァイオリンより特別賞与のグアルネリ・デル・ジェス。

<https://www.mone-violin.com/>